

2021 年度大学入学共通テスト 解説 〈倫理, 政治・経済〉

第1問 源流思想

問1 正解は①。

- ① ペテロはイエスの第一の弟子とされる人物で、初代のローマ教皇と位置づけられている。十字架刑に処せられたイエスが三日後に復活したことから生前の行いを悔い改め、使徒としての使命を自覚した。
- ② 荀子は人間の本性は悪であるとして、悪なる本性を矯正するために人為的に礼を身につけるべきだと説いた。欲望が自然に落ち着くわけではない。
- ③ 董仲舒は儒学者の一人で、天と人とが密接に関係するという天人相関の理論を説いた。それによれば、自然災害は善政ではなく悪政が行われている社会において起こるとされる。
- ④ スンナ派ではなくシーア派についての記述。ムハンマド亡き後のイスラーム共同体(ウンマ)の指導者カリフの座をめぐることは、ムハンマドのいところに当たる4代目アリーが暗殺されてから分裂が起こり、アリーの子孫にのみ正統性を認めるシーア派が形成された。多数派のスンナ派と対比される。

問2 正解は②。

- a 「福音」が入る。福音とはもともと「喜ばしい知らせ」という意味で、イエスによって伝えられた新しい救済の教えを指す。
- b 「ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも」が入る。イエス以前のユダヤ人の世界ではユダヤ人のみが救済の資格を持つとされてきたが、イエスは民族の差異を認めず、万人に救済の道が開かれていると説いた。使徒パウロはこの教えを踏襲している。
- c 「律法」が入る。ユダヤ教では神の掟としての律法を遵守することによってのみ救われると説かれてきたが、パウロは、人間の根源的な罪深さを強調し、正しい行いではなく、ひたすら悔い改め信仰することによってのみ救済が可能だと説いた。

問3 正解は①。

- ① エピクロスは、心のうちにある欲望をすべて克服した煩いのない境地(アタラクシア)こそが幸福であると考えた。
- ② エピクロスがとった快樂主義の立場とは、刹那的な物質的な快樂などではなく、永続する精神的な安らぎのことを指す。

- ③ ストア派は自然の理法と人間の理性が一致するとして、「自然に従って生きる」べきことを説いた。
- ④ エピクロス派やストア派と同時代に活躍したヘレニズムの思想家の一人であるピュロンについての記述。

問4 正解は③。

- a 「十分に準備をした上で発表に臨めていなかったのだから」が入る。大問の冒頭会話文中でXは「準備を怠けていたことに気付いて、恥ずかしくなる」「もっと頑張るべきだった」と述べており、また「周りの評判は関係なくて」とも述べている。
- b 「慚」が入る。資料には「自分自身によって引き起こされ」るものが「慚」だということなので、Xの恥ずかしさはこれに該当する。

第2問 日本思想

問1 正解は③。

- ③ 日本の記紀神話には、キリスト教などに見られるような唯一神・創造神は登場しない。ギリシア神話もこれと同様であって、資料には、ガイアからポントスやオケアノスなどの神々が生まれたとある。
- ①② 前述の通り、記紀神話には唯一神・創造神は登場しない。
- ②④ 資料文によれば、オケアノスはガイアとウラノスの間に生まれているが、ポントスはガイアがウラノスと結ばれる前に「情愛なくして生んだ」ということなので、ウラノスが生んだわけではない。

問2 正解は①。

- a 「右下の屋敷内の人物を極楽往生に導く」が入る。絵画資料からも明らかだが、生徒の調べた結果に、「この仏は阿弥陀仏だ」とあるので、来世で極楽浄土へと生まれ変わること(=往生)を目指す浄土信仰についての資料であることがわかる。浄土信仰は③④のような「現世利益」を否定する。
- b 「仏の教えだけが残っており、正しい修行も悟りもない」が入る。浄土信仰が前提とする末法思想によれば、釈迦入滅後の500年間(または1000年間)は仏の教え(教)・正しい修行(行)・悟り(証)のすべてが生きている正法の世だが、その後1000年間(または500年間)は教と行のみが生きてる像法の世であり、さらにその後1万年間は教のみが生きてる末法の世が続くとされる。②④のbは像法の説明となっている。

問3 正解は②。

- a 「林羅山」が入る。師・藤原惺窩の推挙に基づき、將軍家の侍講として仕えて朱子学を漢学化させたのが林羅山である。荻生徂徠は朱子学を批判した古学派に位置づけられる。
- b 「人間社会にも天地自然の秩序になぞらえられる身分秩序が存在し、それは法度や礼儀という形で具体化されている」が入る。幕府が確立を目指していた身分秩序を理論的に正当化した「上下定分の理」についての説明である。①③のbは荻生徂徠の古文辞学についての説明となっている。

問4 正解は⑤。

- ア 戦後を代表する政治学者の丸山真男。敗戦直後に書いた「超国家主義の論理と心理」で、結果責任を負おうとしない指導者たちを糾弾し、日本を覆う「無責任の体系」を批判した。
- イ 戦前戦後を代表する文芸批評家の小林秀雄。昭和初期の評論「様々なる意匠」で、当時の文壇で流行していたマルクス主義や写実主義など様々な「意匠」を、批判的に論評した。
- ウ 吉本隆明。著書『共同幻想論』の中で、国家が人々の共同幻想によって成立しているに過ぎないと指摘し、柳田国男の『遠野物語』などを手がかりに、地に足のついた実生活に根ざした思想の構築を試みた。

第3問 西洋近現代思想

問1 正解は③。

- ③ デカルトによれば、精神は身体から独立しているが、身体に由来する情念によって強く影響を受ける。これを統御するのが高邁の精神である。
- ① モンテーニュのモットーである「ク・セ・ジュ(私は何を知っているのだろうか)」を念頭に置いた誤文。
- ② モンテーニュやパスカルらのモラリストについての記述であり、デカルトはモラリストの系譜には位置づけられない。
- ④ 学問を確実な土台の上に基礎づけることを目指したデカルトの議論についての記述だが、高邁の精神は科学的・学問的な認識に関わるものではなく、実践に関わるものである。

問2 [10] 正解は④。

- ④ 資料文には、「社会的通念」という敵に出会うと、良心は「押し黙る」ことを余儀なくされ、「何も語らなくなり、応答しなくなる」とある。
- ① 「良心を感じるやましさが「いっそう強くなっていく」というのは、資料文の主張と逆である。
- ② 「世間の常識」が資料文にある「社会的通念」に当たるものなので、これが良心を押し黙らせるという資料文の趣旨から判断すれば、良心に反する命令に従う人は誰もいないという記述は不適當である。
- ③ 「良心を生み出した世の中のモラル」とあるが、資料文では「良心は社会的通念の産物である」という考え方が正面から否定されている。

問3 [11] 正解は⑤。

- ア 実存の第二段階に当たる「倫理実存」の説明である。
- イ 実存の第二段階で生じた絶望を経て到達する第三段階の「宗教実存」の説明である。
- ウ 実存の第一段階に当たる「美的実存」の説明である。この段階の絶望を経て、人は倫理実存に向かっていくとされる。

問4 [12] 正解は③。

- ③ 「良心の声はどこから聞こえてくるのか」という問いに対し、123 ページの文章では、ハイデガーの立場として、「私の内から」聞こえてくるとされている。また問4の会話文では、先生 T が「誰かと共に、知る」の「誰か」には自分が含まれると述べている。
- ① 「誰か」に周りの人が含まれるのは当然としても、それが「最も重要」だとはされていない。むしろ前述の通り、「誰か」には「本人」「自分」が含まれることが強調されている。
- ② 「知る」働きが道徳や倫理の唯一の根拠だという記述はどこにも見られない。
- ④ 123 ページの文章では、アーレントを紹介する中で、良心を自ら麻痺させてしまう事例が示されている。

第4問 青年期・現代社会分野

問1 [13] 正解は⑥。

- a 「自我がエス(イド)と超自我」が入る。フロイトによれば、心は自我、エス、超自我の三部分に分けられ、意識的・自覚的な領域である自我が他の二部分を調整しようとしているとされる。

- b 「勉強不足が原因だと分析し、計画的に勉強しようとする」が入る。「問題焦点型対処」とはストレスの原因に目を向けてその原因そのものを変えるものなことなので、成績の悪さを勉強不足によると分析して計画的に勉強することは、これに当たる。これに対してただ気持ちを切り替えようとしたり、運が悪かったと思ひ込もうとしたりすることは、問題の原因となる状況を変えようとせずに情動を軽減しようとしているのだから、「情動焦点型対処」に当たる。

問2 正解は④。

- a 「恣意的な取捨選択に委ねず、忘れることなく書かれるべきだ」が入る。第4問冒頭会話文中のPによる第八の発言を言い換えたものである。「正しい書き方は決められず、その書き方は全て自由にすべきだ」は、第4問冒頭会話文中のPによる第五の発言で否定されている立場である。
- b 「人間だけでなく自然そのものにも価値があることを認める」が入る。自然の生存権とは、権利主体を人間に限定せず、動物などの自然にも認めるべきだとの考え方であり、その考え方の背後には、自然そのものに価値があるという見方がある。「現代の人間にとって有用な自然を優先的に保護する」というのは人間中心主義的な発想に基づく自然保護論にすぎず、自然の生存権の主張とは異なる。

問3 (1) 正解は②。

- ② 「物質的な生産関係」は土台(下部構造)である。上部構造は土台によって支えられる哲学や法律などの精神的産物である。
- ① マルクスはヘーゲルの弁証法を継承・発展させつつ、精神的なものが根源的であるとするヘーゲルの観念論を転倒させた。
- ③ マルクスは階級闘争が歴史の原動力であると主張した。
- ④ 空想的社会主義とは違って、マルクスは、労働者階級の革命的実践によって資本主義が打倒されると論じた。

(2) 正解は⑤。

- a—ウ 第4問冒頭の会話文におけるPの第二の発言を参照。
- b—ア 「歴史は、様々に書くことができる」というのは、第4問冒頭の会話文におけるQの第二の発言が元になっている。
- c—イ 「どの出来事にも意味がある……過去のどの出来事も忘れられてはならない」というのは、ベンヤミンの資料文2-3行目の「かつて起こったことは何一つ歴史にとって失われてはならない」という記述に対応する。また「現時点ではその全てを書くこ

とはできない」というのは、資料文 3-4 行目「人類が自らの過去を完全な姿で手中に収めることができるのは、人類が解放されたときである」という記述に対応する。

第 5 問 民主主義の基本原則と日本国憲法

問 1 正解は④。

ア 資料 1 は、憲法第 14 条と第 19 条の規定は私人相互の関係を直接規律することを予定していないということが述べられている。従って、「私」が当てはまる。

イ 資料 2 では、イは民法により制限されるが、その一方で尊重されるべきものとされている。私人についての文章である資料 1 を踏まえると、イには「私的自治」が当てはまる。

問 2 正解は②。

② 2022 年 4 月以降は成年年齢が 18 歳以上になる。成年は、原則として親の同意なく自分一人で契約をすることができる。

① 契約は当事者の意思が合致することで成立する。契約書の作成は原則として不要である。

③ クーリング・オフ制度は、「いつでも」ではなく、「一定期間内であれば」契約を解除できる仕組みである。

④ 改正貸金業法の施行により、借入れ金額の上限を年収の 3 分の 1 に制限する規定が導入された。

問 3 正解は⑥。

a 誤文。資料 1 は、憲法に定める義務教育の無償の範囲は、授業料だけでなく修学にかかる一切の費用であるとする考え方であり、そこに国会が介入する余地はない。

b 正文。資料 2 は、経済的な理由により就学困難な者がいるという問題に対しては、憲法第 26 条の「義務教育の無償」ではなく、生存権(教育扶助・生活扶助)に基づき解決すべきと説いている。

c 正文。資料 3 は、保護者の教育費の負担軽減については、国の財政等の事情を考慮して立法政策の問題として解決すべき事柄であり、憲法の規定するところではないと述べている。であれば、国の財政等の事情が許せば、立法政策として就学ないし修学にかかる費用を無償にすることができる。

問 4 正解は①。

- ① 候補者男女均等法は、政党などに候補者の数について男女の数の目標を定めるなど、自主的な努力を求めている。罰則規定はない。
- ②③④ 正文である。

問 5 正解は③。

- aーイ a は公的異議申し立てがある程度自由にできるが、選挙権はあまり認められていない政治体制であるから、制限選挙がとられ、チャーティスト運動で男子普通選挙が求められていた時期のイギリスが当てはまる。
- bーア b は図の右上にあるので、高度に包括的で公的異議申し立てに対して開かれた体制に近い位置にある。日本国憲法で選挙権や言論の自由が認められている日本が当てはまる。
- cーウ c は選挙権は広く認められているが、公的異議申し立てはしにくい政治体制であるから、男女普通選挙は実現しているが公的異議申し立てに対しては厳しい姿勢で臨んだ、ゴルバチョフ政権より前のソ連が当てはまる。

問 6 正解は⑤。

- a 正文。憲法第 43 条、59 条と公職選挙法の規定について述べられている。
- b 誤文。政府高官人事への同意は、下院ではなく上院に与えられた権限である。
- c 正文。イギリスの下院と上院に関する正しい説明。2011 年に成立した議会任期固定法により、下院を解散するには、下院が内閣に対する不信任決議を可決した場合、または 3 分の 2 以上の多数で解散を決議した場合などに限られている。

第 6 問 現代の経済

問 1 正解は②。

- ア 日本的経営を構成したのは、終身雇用・年功序列型の賃金・企業別労働組合という日本独特の労働慣行である。
- イ 実際の労働時間を問わず、労使であらかじめ合意した時間働いたとみなす制度を裁量労働制という。

問 2 正解は④。

- a 正文。非正規雇用の労働者も労働組合を結成することができる。
- b 正文。労働組合法では、使用者が正当な理由なく団体交渉を拒否することを禁止している。

- c 誤文。使用者が労働組合の運営に対して金銭的な援助を実施することは、労働組合法の不当労働行為に該当する。

問3 25 正解は②。

- ② 国債依存度は、歳入に占める公債金の割合のことである。この国の国債依存度は2017年度が約26.7% ($16 \div 60$)、2018年度が約25.3% ($19 \div 75$)であり、わずかに低下している。
- ① 2017年度、2018年度ともに公債金が国債費を上回っているのに、国債残高が減少することはない。
- ③ プライマリーバランスは、国債の発行による収入を除いた歳入から、国債費を除いた歳出を差し引いた収支額のことである。2017年度は $-2(44 - 46)$ 、2018年度も $-2(56 - 58)$ であるから、赤字額は拡大していない(単位はいずれも10億ドル)。
- ④ この国の直接税は法人税と所得税で、間接税は酒税と消費税である。直間比率を見ると、2017年度は直接税と間接税ともに50%であるが、2018年度は直接税が約51.8%となっており、直接税の比率が上昇した。

問4 26 正解は①。

- ① この模式図は、不良債権の損失を自己資本で穴埋めしたことを示している。金融機関は健全性を維持するため、BIS規制により自己資本比率規制が義務づけられている。自己資本を増やして貸し出しを減らせば自己資本比率が改善するため、自己資本比率の低い金融機関は新たな貸し出しを抑制する傾向がある。
- ② 貸し渋りとは、金融機関が極端に慎重な貸し出し姿勢をとることである。
- ③ 金融機関における自己資本比率とは、総資産のうち、リスクのある資産(貸し倒れの可能性がある資産)に対する、資本金などの自己資本の割合のことをいう。
- ④ 模式図を見ると、貸出債権の一部を不良債権として資産から取り除くと、預金に対する貸出債権の比率は低くなる。

問5 27 正解は②。

- ② IMF協定では当初、ドルを基軸通貨とし、金との交換を保証する固定相場制が採用された。すべての加盟国に自国通貨と金との交換を義務づけたわけではない。
- ①③④ 正文である。

問 6 正解は②。

ア 図に「経済特区」とあるので、a が当てはまる。新興国は、当初は、輸入に依存していた製品を国内で生産する輸入代替工業化を進めた。しかし、この形では自国の経済発展には結びつかなかったため、自国で加工した製品を輸出したり、輸出向けの部品生産などを行ったりする**輸出指向(志向)型の工業化**を進めた。

イ 図に「日本企業による部品供給と進出先での組立て」とある。これは日本から部品(中間財)が輸出され、完成した製品(最終製品)が日本に輸入されることを示す。

第 7 問 途上国支援

問 1 正解は①。

① 民主主義の国家においては、国民の意思に従って政治が行われる。この国民の意思を政治に反映させる制度の一つが、自らの意思表示としての投票により、議員や政党を選び、有権者として国政に参加する**選挙**である。

② ドイツのナチス政権のように、民主政治から独裁政権や全体主義が生まれることもある。

③④ 二重下線部とは関連のない文章である。

問 2 正解は②。

ア 大きく経済発展し、BRICS の一国に数えられるインドが含まれているので、13 年間で大きく増加したアは**電力発電量**が当てはまる。

イ 2002 年に比べて 2015 年は減少している。出題された 5 か国のうちには、1960 年代以降の「緑の革命」によって食料の増産に成功した国もある。従って、イは**栄養不良**の人口割合が当てはまる。

ウ 発展途上国は、人口ピラミッドで見ると富士山型(ピラミッド型)が多い。多産多死であるから寿命は短いと予測できる。従って、ウは**平均寿命**が当てはまる。

問 3 正解は③。

バングラデシュの**グラミン銀行**が行っている、主に農村部の貧困層の自立などを進め、貧困を削減するための取り組みの一つとして、**無担保・低金利**で少額の資金を融資するシステムを、**マイクロファイナンス(マイクロクレジット)**という。

問 4 正解は①, 正解は④。

ア 「国際貢献は日本国憲法の依拠する理念や原則に照らしても望ましい」ことを理由とするとあるので、日本国憲法の前文に掲げられた理念を説明している①が当てはまる。

②のようなことは義務づけられていない。

イ 「国際貢献は日本の利益に照らしても望ましい」ことを理由とするとあるので、「人類共通の利益の追求が日本の利益の実現につながりうる」と述べている④が当てはまる。